オホーツクブルーと稔りの大地の間
素敵な出合い

全国から北見入りした日本赤十字社の皆さんに会員がそれぞれのパフォーマンスでおもてなし。そこに出合いのドラマがありました。

名古屋第二赤十字病院・高山赤十字病院

名古屋第二赤十字病院・院長先生がいろいろお尋ねになり、大変、好意的に話を聞いて下さった。

パネル展の会場で北見赤十字病院の女性スタッフの方が声をかけて下さり、「副院長のお話を聞いて（谷川が話したことが）大変良いものであったみたいだ」とのこと、その好意的なご様子に感じ入りました。

いつかお話しが出来れば、と。頂いた名刺をひもとくと高山赤十字病院の副院長先生と解りました。「支援する会」をつくるきっかけになったこと、いくつかの活動について話したのだと思い出しました。

嬉しい出合いであった。超多忙であったはずの吉田院長が「支援する会」の「パネル展」に足を運んで下さった。

北見の歴史に素晴らしい一里塚を築いて下さった吉田院長の英断に拍手を送りたいと思う。

そして、参加させて下さったことに感謝なのである。

一日半の中で3回転したパネル展は、部外者の目にも豪華絢爛な医療技術と知の世界だった。凄い。

研鑽の成果を受け止められる患者でありたいと思う。

代表・谷川勝男

足利赤十字病院・日赤長崎原爆病院

パネルは出入り口から順に張ってある。

チラっと目をやる方、順序良く見て下さる方、途中気になった写真などから見始める方、目もくれない方さまざまなのです。

ドリンクコーナーの人の波は150人ほどいたり、20人程になったりを繰り返す。

「この会はどんな会ですか？」と声をかけて下さる方が何人かいました。「北見赤十字病院はこのオホーツク地域で大切な病院なので、市民の自発的な応援団です」と答える。

足利赤十字病院の方にお会いし、来年は宇都宮で医学会総会が開催されることなど、谷川代表とお聞きした。翌日、足利赤十字病院の3人の女性が見えられ、熱心にわたしたちの活動を聞いて下さり、嬉しい出会いになりました。

15日の予定を終わらせて駐車場に行くと、私の車に20Cmほどの間隔で車がピタッと止まっていた。

同乗の女性2人は運転をしません。私は両股関節人口関節で、助手席から乗り込むこともできず思案をしていると、1台の車がきて2人の青年が降りてきた。

事の次第を話すと、快く助手席から乗り込み前に出してくださった。胸には「日本赤十字社医学会総会」出席者のネームがありました。

16日ポスター会場に入ると、展示を終えた昨日の2人、私達3人と共に、ドリンクコーナーでお礼を言って歓談しました。

長崎原爆病院の方で、まるで旧知のように、親戚の者のように話は弾んだ。発表も部外者と知りつつ、聞かせていただき、もっと多くの方に聞かせたい、こだけではもったいないと感じました。

思いがけなく日本赤十字社の行事に係ることが出来て、災害時などで素早く対応できるのは、全国の赤十字が家族のように繋がっているからだと、また2人の青年の優しい眼差しから、家族のように日々患者さんと接している姿を思い、出会いの不思議さを感じています。

会員・阿久津俊子

大森赤十字病院

10月14日(水)オホーツクビアファクトリーにて「意見交換会（本社役員・実行委員など」。我が会も出席した。

私は隣の方と名刺交換をし、新しい出会いがうまれた。

東京都大田区の大森赤十字病院、検査課長職務代理の方と医療社会事業課社会係長である。ビールの美味しさや、北見の今朝の寒さなどなど大いに意見交換することが出来た。また、「日赤支援する会って、何ですか？」私はビールの力を借り、身振り手振りで説明し、楽しいひとときが流れ北国の夜は過ぎていった。

10月15日(木)北見市立体育館。支援する会もパネルと写真を展示した。またドリンクサービスも担当した。私の友人三人も応援してくれた。そこへ、昨夜の大森赤十字病院の

（3面につづく）